

## 身を低くしてみると

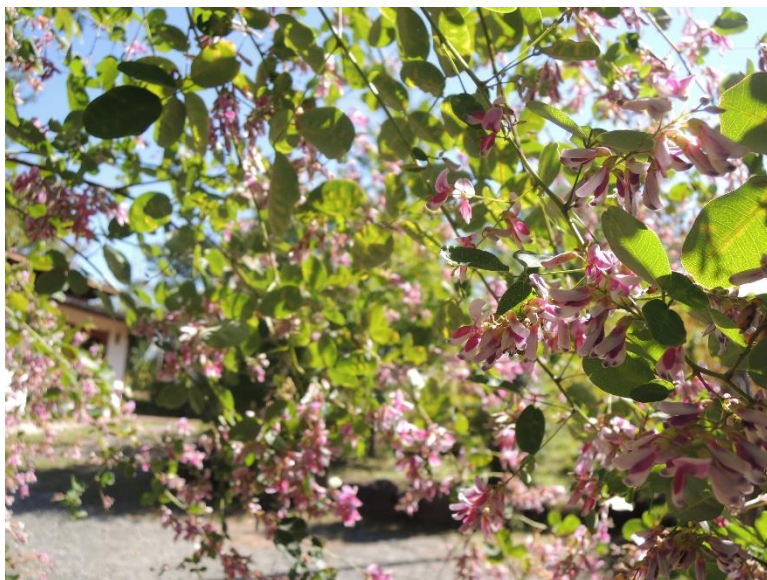
牧師 山本 護

**「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ(マタイ福音書 18章 3～4節)」。**

天国に入るには「子供のようになれ」、か。ちゃんと考えるとこれが案外難しい。コドモのようなオトナがいるように、オトナのようなコドモがいるからです。現代の日本ではありませんが、労働力として使役されるコドモもいるし、幾人もの召使いを顎でこき使うコドモもいます。また同一人物でも、小動物を残酷になぶっていることがあるかと思えば、教師の強権やイジメの包囲網(イジメる側であっても)に伏していることもある。

ということでこの「子供のように」という戒め、字句通りに考えてみると迷路です。とはいっても教会の教えなので、もっとも弱い立場である子供として父なる神を信頼し、そのままの姿で、率直に、偽りなく、御前に立て、と解せば無難かもしれません。

昔の床屋は髪をピシッと切り揃え、おぼっちゃま風にきっちりセットして終了。この道四十年の一徹な美学をコドモながらに忖度し、自然にやって下さいと言い出せず、店を出て死角に入ると髪をグシャグシャにしていました。それと関係あるのかないのか、伝道所の庭の手入れは、やや放置された自然な感じを心がけています。繁茂力の強い萩はしつこく刈り、あえて刈り残した萩は妙に慎ましくなりました。



9月下旬、刈り残した萩に豪勢な花が咲き、コドモのかくれんぼのように、身を低くし、花の中にもぐり込んでみました。「自分を低くしたら何かあるのかね」と半ば皮肉まじりの冷やかしのつもりでしたが。すると、馥郁たる甘い香りが。「花あまく天の国萩刈り残す」。一句ひねってみると、コドモの天国は、オトナの天国でもあることに気づきました。Ω